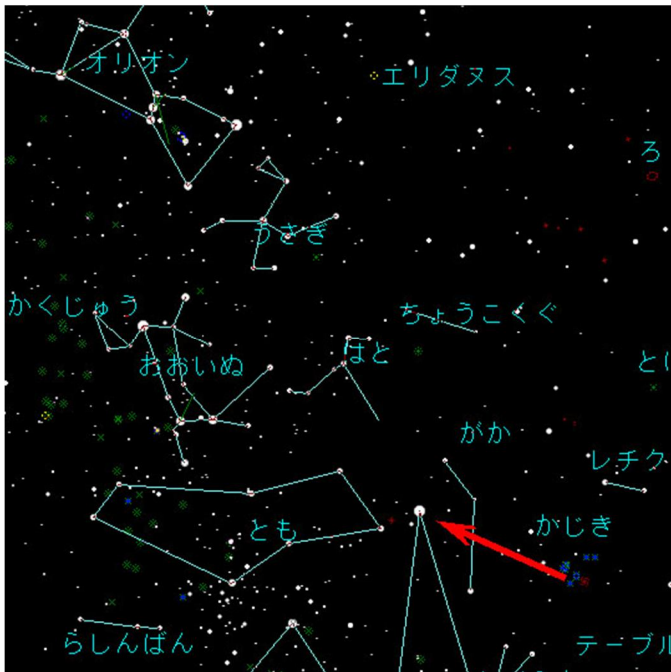


## 「カノープスに挑む(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「カノープス」という恒星がある。りゅうこつ座という星座の「愛すべき一等星」である。日本人には全く馴染みがなく、恐らく、一生のうちに一度も見ずに終わる人がほとんどだろう。

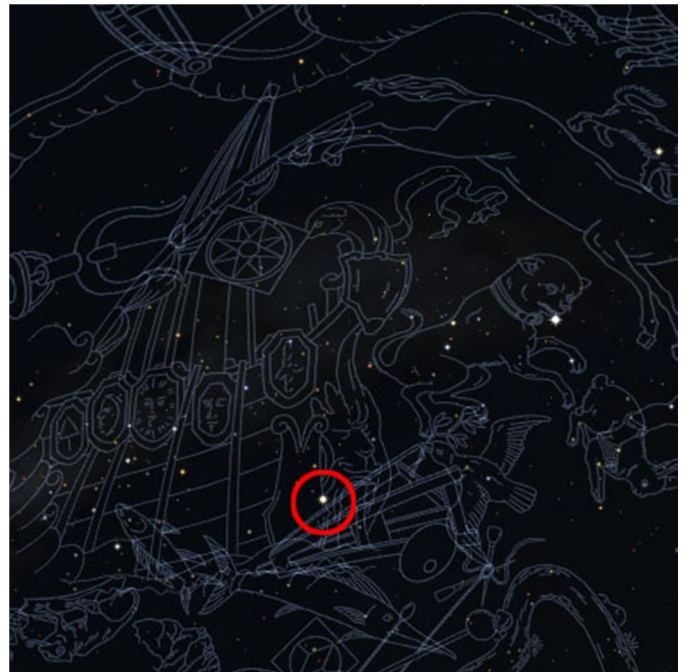


「カノープスの位置」 オリオン、おおいぬよりも南

そもそも「りゅうこつ座」そのものを知らない人が多いと思う。漢字では「竜骨座」と書く。竜骨というのは、大型船の船底にある構造材のことだ。こんな変なものが星座になっているのにはわけがある。

りゅうこつ座は、もともとは巨大な星座「アルゴ座」の一部だった。これはギリシア神話に登場する「アルゴ船」のことである。あまりにも巨大だったので、1922年に「とも座」「ほ座」「りゅうこつ座」の3つに分割された。「らしんばん座」を含めて4つに分割されたという説明もあるが、正確にはこれは誤りである)つまり、巨大船が、パーツごとに別々の星座になったということである。

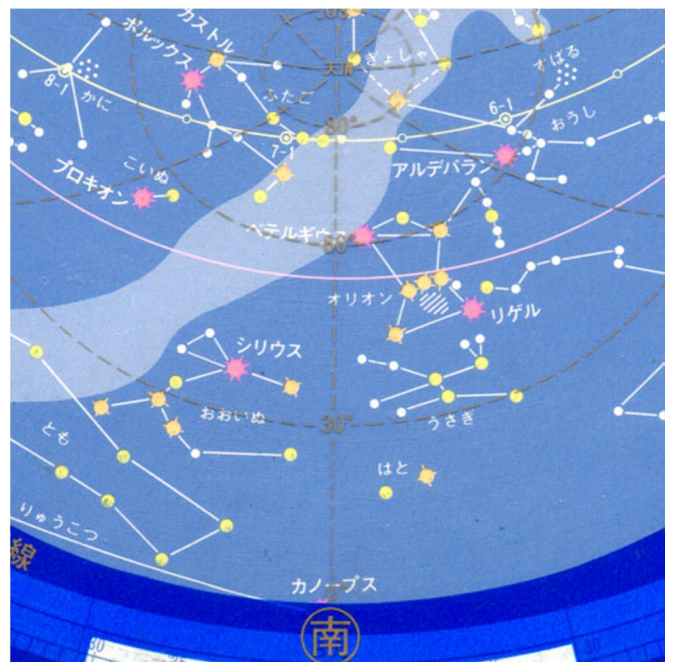
上図のような、星座線だけの星図では、どこが帆で、どこが竜骨なのか、さっぱりわからない。しかし、右上のような、星座絵の描かれた親切な星図を見ると、確かに天球上に巨大な船があることがわかる。図中の○で囲んだ恒星が、カノープスである。



「りゅうこつ座、ほ座、とも座、らしんばん座付近の、星座絵入りの星図」(ステラ・ナビゲーターで作図)

このカノープス、もちろんりゅうこつ座では一番明るい一等星だが、太陽を除けば、全天の恒星の中でも、シリウス(-1.5等)に次いで、2番目に明るい恒星なのである。実視等級は-0.7等である。

こんなに明るいのだから、都会でも簡単に見られると思ったら、これは大間違いである。カノープスは、日本…特に関東地方では、「観望が困難な一等星」ナンバー1なのだ。理由は単純明快、南中高度が非常に低いからである。



「星座早見盤に現れたカノープス」最も地平高度が高いはずの南中時でも、早見盤の縁に半分見える程度。